Kosa Style
こうさ スタイル

本町の温かさを大きな力に 故郷を離れて復旧復興を

派遣職員の皆さん / 前列左から宮﨑さん、蒲ヶ原さん、野付さん、徳丸さん、後列左から笹原さん、上谷さん、奥薗さん、森田さん。

蒲ヶ原 敬嗣さん
Kamagahara Takatsugu

〔鹿児島市役所〕
町建設課
震災復旧復興派遣職員

熊本地震や豪雨で大きな被害を受けた本町では、迅速な復旧・復興に向けて、被災後全国の自治体などから多数の復旧復興支援の派遣職員を受け入れている。今までに短期間の支援に約800人、長期間では延べ50人に支援いただき、2月末現在8人が町職員と一丸となり尽力している。

建設課に配属の蒲ヶ原敬嗣さん（鹿児島市役所）は、一昨年4月から道路や河川の災害復旧、甲佐町住まいの復興拠点施設や総合運動公園などの復興事業に携わってきた。

「テレビで被災した道路や河川などを見て、土木技師として力になれたら」と、震災直後から派遣を志願。「復旧復興の速度を上げていきたい。復旧が終わるまで携わりたい」と自ら希望し、派遣では最長の2年が経とうとしている。町職員などと力を合わせ業務を進め、「通れない道路も少なくなり、皆さんが地震前の生活に戻れる状況に近づいてきました」と復旧が進む現状に安堵。「実務経験も浅く不安もありましたが、先輩方に丁寧に教えてもらい、多くを学べました」と振り返る。

登山が趣味で、派遣されてすぐに甲佐岳を登り「山頂から見る正面を流れる緑川と、宮内の山々の風景に感動しました」と蒲ヶ原さん。派遣生活でも本町を満喫し、「家の前を蛍が飛んでいたんです。初めて見ました」と振り返る。自然の豊かさや「外で洗濯物を干していると、皆んな話し掛けてくれます。野菜やお米をもらうこともありました。のみの市やあゆまつりも、皆さんと一緒に楽しみました」と笑顔で語る本町の人々の温かさが、復旧復興事業に取り組むエネルギーとなった。

「万が一自然災害が発生したときも、業務を引っ張っていける人になりたい。災害復旧を経験したからこそ、災害に強いまちづくりに生かしたいです」と語る蒲ヶ原さんは、鹿児島に戻っても活躍を誓う。

広報 こうさ

2019年（平成31年）3月号
通巻596号

発行・甲佐町　発行人・甲佐町長 奥名克美　編集・地域振興課　住所・〒861-4696 熊本県上益城郡甲佐町大字豊内719番地4　TEL096-234-1154
URL・https://www.town.kosa.kumamoto.jp/ ※本紙は再生紙を使用しています。